

平成 17 年度事業活動報告

I. はじめに

平成 17 年度は現役員体制の 2 年目であり、協会設立 25 周年という節目の年でありました。

組織、教育、広報出版、関西、25 周年と 5 つの委員会活動も非常に活発に行われました。

具体的には各委員会別で詳細に報告が後述されておりますが、既に終了したものに、日本広報学会創立 10 周年事業に（財）経済広報センターと共催し、「国際シンポジウム」（平成 17 年 8 月 6・7 日 愛知博会場）を、成功の内に終了させました。

また、もう一つの記念事業である「記念出版」につきましては、残念ながら予定より進行が遅れておりますが、この夏までは刊行を目指して編集担当が最後の頑張りを見せております。

「資格制度」につきましては教育委員会の中でも、最も時間と労力を費やし準備を進めてきました。当協会としても永年の懸案事項であり、今年度は調査、研究の年で、平成 18 年度秋の模擬テストを踏まえ、平成 19 年度の本格導入へとスケジュール化されております。

組織委員会の見積もり汎用フォーマット研究部会では、研鑽を重ねた結果、平成 18 年 1 月「見積もりガイドブック」を刊行、PR 会社、広告会社、一般企業はもちろん横浜、福岡、盛岡の各市に警視庁や大学からの購入希望もあり、現在 700 部以上が販売されております。

活性化委員会は「企業会員増加のために何をなすべきか」をテーマとし、「協会活動の見直しを行い、魅力ある、入りやすく活動しやすい団体に变化させる必要あり」という狙いを持って平成 17 年 7 月にスタートしました。中でも、「企業会員の増加」と「企業会員の活動参加率の向上」が達成されることを活性化のゴールイメージと設定し、具体的なアクションプランを立案しました。それを“小集団活動”とし、名称を「実践広報研究会」愛称「PR Café」として立ち上げました。具体的には 18 年度へ継続事業となります。

会員数の減少傾向をなげく団体が多い中で、当協会は確実に増加しております。会員の皆さまには毎月の「協会ニュース」で詳細にご報告しておりますとおり、大手企業の加入が目立ちます。

この 2 年間を見ましても、平成 16 年度 4 月、413 名でありましたが、平成 18 年度 4 月では 474 名と 60 名以上の増加であります。会員の皆さまのご協力、ご尽力の賜物であり、深く感謝いたします。

以下、平成 17 年度各委員会の活動をご報告します。

Ⅱ．委員会の主な活動

1．組織委員会

体制強化・活性化を目的に、情報交換、研鑽のための活動を実施いたしました。

特に 17 年度は、会員にメリットを感じてもらえるような企画に重点的に取り組み、強化を図ることにしました。そのためにコアとなるべき方を登録メンバーの中から決定し、各々の分野で活躍いただきました。また、部会・小委員会・専門部会をミックスさせた体制とし、1 年間活発に活動してまいりました。

(1) 企業部会 …… 一般企業会員対象

① 企業訪問

企業広報人としての人脈の構築、広報担当者のスキルアップを目的に、活発な活動を展開している話題の企業を訪問し、広報体制・広報活動につき話を伺った。訪問先決定に当たっては、目的・前提条件を確認し、各々の考えられるトピックをベースにして、訪問先企業および講師の決定・招聘を行った。

なお、平成 18 年度からは教育委員会主催「研修見学会」と共催することにした。

訪問先は次の通り。

開催日	訪 問 先	備 考
平成 17 年 6 月 4 日	第 20 回 東海旅客鉄道(株)	山梨県大月市・都留市にあるリニアモーターカーの実験場を視察・試乗した。15 名参加。
平成 18 年 2 月 4 日	第 21 回 陸上自衛隊 朝霞駐屯地	陸上自衛隊の広報活動およびヘリコプターに体験試乗した。23 名参加。

② 広報懇話会（PR 業・PR 関連業会員の参加可）

今日的関心事項をテーマに、専門家、政治家、マスコミ、大学教授、企業経営者等から講師を招聘し、当協会の設定でしか開けない秘話、ノウハウ、ケーススタディを伺い、広報業務・PR 業務に携わる者にとって必要な知識の構築を狙いとして、今年は 4 回開催した。

ゲスト（講師）は次の通り。

開催日		講 師	テーマ
平成 17 年 4 月 4 日	第 2 回	ツカサグループ 代表 川又三智彦氏	全てを失って知った価値の根源
7 月 6 日	第 3 回	フリージャーナリスト 仮野 忠男氏	中国と韓国・北朝鮮の日本関係裏事情
11 月 18 日	第 4 回	昭和女子大学副学長 坂東眞理子氏	男女共同参画社会の消費と職場
平成 18 年 3 月 14 日	第 5 回	衆議院議員 民主党 岡田 克也氏	『小泉後』の日本政治

(2) PR業部会 …… PR業・PR関連業会員対象

PR業の経営に関わるテーマを順次取り上げ、PR業を認知してもらえるような活動を目指している。

- ・ 専門部会

PR業・PR関連業会員の参加（公募）を得て、PR業全体に関わる問題を取り上げ、業界全体の地位・認知の向上を図るため施策を実現し、会員の要望に応えた。

専 門 部 会	内 容
「個人情報保護法対応研究」	研究専門部会で協議を重ね、「パブリック・リレーションズ活動における個人情報保護に関する指針」としてまとめ、「PR手帳 2006」日本PR協会概要のページに掲載した。
「PR業における下請法対応研究」	研究専門部会では調査・研究を重ね、その結果を「下請法とPR業界」としてまとめ、「PR手帳 2006」に掲載した。
「PR業人事・労務戦略研究」	平成 17 年 10 月 19 日発足会開催・幹事会にて方向性・内容について検討。協会内での位置付けと組織委員会としての取り組みを整理。1. PR業調査ワークショップ、2. PR普及ワークショップの 2 ワークショップを立ち上げた。平成 18 年度 4 月より 2 つのワークショップメンバーを募集し、具体的活動に入る。
「PR業見積汎用フォーマット研究」	PR活動の「業務内容」とその「対価」に対するガイドラインの必要性は以前より要望されていたが、平成 17 年当研究部会では何度も協議・検討を重ねた結果、その集大成として「見積ガイドブック」として小冊子を作成。平成 18 年 1 月に刊行した。反響は大きく、自治体・大学などからも購入希望があった。

(3) 広報効果測定ワークショップ

平成 16 年 9 月から 17 年 6 月まで、企業会員とPR業会員ならびに学識経験者の方々の協力を得て、広報活動の領域で長年の課題となっている「効果測定」に関してのワークショップを開催した。その結果、問題意識と目的・効果測定の現状・効果測定の今後の課題としてまとめ、協会ホームページ及び「PR手帳 2006」に掲載した。

(4) 会員制度

現行の「会員」・「賛助会員」制度を維持した上で、一層の会員増加を図るため、新たに当協会功労者、OB会員をはじめ、PRに関心を寄せる多彩な人々に門戸を開放する制度に一部改訂した。

(5) 国際(特別国際セミナー)

下記 2 件のセミナーを臨時で開催した。

開催日	講 師	テーマ
平成 17 年 6 月 21 日	米国バーソン・マーステラ社 創業者会長 ハロルド・バーソン氏	PR界の世界的潮流 ～変化の中での PRプロフェッショナルとは～
平成 18 年 1 月 25 日	バーソン・マーステラ 最高ナレッジ&リサーチ責任者 レスリー・ゲインズ-ロス氏	CEOの戦略的広報に関する講演会 ～企業トップの評判が与える企業価値 そして企業資産への影響～

(6) 行催事

- ・ 通常総会／懇親パーティ …… 通常総会 → 5月31日(火)開催。出席者105名・委任状提出者197名・合計302名で、過半数207名を超えて成立。
懇親パーティ → 同日総会終了後、18:30から会員・招待者・関係者計127名により開催。
- ・ 新入会員歓迎懇談会 …… 当協会に対する理解促進を図るため、新入会員(希望者／変更会員を含む)・協会役員・組織委員会委員による懇親会を7月8日開催した。
- ・ 新年会 …… 平成18年1月18日(水)開催。新年会は、100名を超える参加者・招待者で活気ある新年会となった。
- ・ 日本PR大賞表彰式 …… 「PRパーソン オブ ザ イヤー」(詳細後述)
・ 野口 聡一氏 12月8日 於:東京商工会議所
「PRアワード グランプリ」(詳細後述)
・ グランプリ・部門賞(ルーティン／キャンペーン／スキル)の表彰式は新年会冒頭で行われた。
- ・ 海外研修ツアー …… 2005年度は会員から要望の多い「アメリカ(ニューヨーク)を訪問した。参加者は18名。
- ・ 親睦ゴルフ会 …… 春秋2回実施。“親睦”・“交流”の場として歓迎されている。

開催日	項 目	会 場
平成17年 5月19日	第28回親睦ゴルフ会	桜ヶ丘カントリークラブ
5月31日	第17回通常総会・懇親会	日本記者クラブ・レストラン「アラスカ」
7月8日	新入会員歓迎懇談会	協会 会議室
10月31日 ～11月6日	2005年度海外研修 アメリカ・パブリックリレーションズ 最前線視察ツアー	アメリカ合衆国・ニューヨーク
11月17日	第29回親睦ゴルフ会	鷹之台カンツリー倶楽部
平成18年 1月18日	新年会(「日本PR大賞」表彰式)	日本外国特派員協会

2. 教育委員会

会員のPR技術の向上・レベルアップを図ることを目的に、各種教育研修プログラムを実施いたしました。また、永年にわたり懸案事項となっていた「資格制度」の導入について、総会の承認を得、本格的準備に入りました。

(1) 新人のための広報講座

4月6日(水)～12日(火)銀座ラフィナートにて開催した。参加者は64名(別に1日のみ受講者延べ50名)。新卒のPRパーソンが主対象だが、企業の新任広報担当者の比率が高まっている。

- ・4月6日(水)～12日(火) 5日間 於：銀座ラフィナート
- ・カリキュラムは次の通り。

開催日	講 師	テ ー マ
平成 17 年 4 月 6 日 (1 日目)	(株)井之上パブリックリレーションズ 取締役社長&CEO 井之上 喬氏	PRの現在と未来
	(株)オズマピーアール PR第3部 南 順子氏	事例紹介① 『『えひめ町並博 2004』PR活動』
	共同PR(株) 取締役 コンサルティング局長 篠崎 良一氏	PR業務の流れと手法
	朝日新聞社 見学ツアー	新聞社の仕組みと新聞記者を知る
4 月 7 日 (2 日目)	(株)エフビーアイ・コミュニケーションズ シニア・ヴァイス・プレジデント 酒井 誠氏	メディアリレーション 1 「パブリシティ概論」
	(株)プラップジャパン コミュニケーションサービス本部 石崎奈穂子氏	メディアリレーション 2 「新聞の基礎知識とパブリシティ」
	日本ロレアル(株) 取締役副社長 コーポレート・コミュニケーション本部長 坪田 秀子氏	メディアリレーション 3 「記者・編集者との付き合い方」
	(株)エートゥーゼットネットワーク 代表取締役社長 石橋真知子氏	PRパーソンの基本
4 月 8 日 (3 日目)	(株)オズマピーアール PR3部 副部長 林 宏幸氏	メディアリレーション 4 「テレビ・雑誌の基礎知識と パブリシティ」
	(株)電通 統合マーケティング局 PRプランニング部 部長 白井 邦明氏	マーケティングと広報
	(株)電通パブリックリレーションズ コーポレートコミュニケーション室 リサーチ&プランニング部 プロデューサー 花上 憲司氏	事例紹介② 「痴呆症啓発のための 調査研究プロジェクト」
	(株)スパイスリレーションズ 取締役副社長 田代 順氏	ニュースリリースの書き方 基本と応用と演習
4 月 11 日 (4 日目)	ファイザー(株) 製品広報部 製品広報担当課長 山下 節子氏	企業の広報部からのアドバイス

	(社)共同通信社 経済部 満野龍太郎氏	記者からのアドバイス
	日本ゼネラル・エレクトリック(株) 広報部 マネージャー 高澤 知子氏	事例紹介③ 『『地域に役立つ発明家になろう』 プロジェクト』
	クロスメディア・コミュニケーションズ(有) 代表取締役 雨宮 和弘氏	I Tと広報
	日本講談協会 会長 神田 松鯉氏	人をひきつけ、動かす話し方
4月12日 (5日目)	ウェーバー・シャンドウィック・ ワールドワイド(株) 常務執行取締役 カスタマーサービス本部長 塩谷 齊氏	危機管理広報の基礎と演習
	毎日新聞社 営業戦略本部次長 真田 和義氏	講演 「新聞協会 協会賞受賞の スクープ裏話と緊急時の企業優劣」

(2) 定例研究会

いつも“旬”なテーマ、“旬”な講師による開催を計画・実行しているが、平成17年度は11回実施、のべ660名参加（1回平均60名）となり、前年より150名強多い参加者となった。

開催日	講 師	テ ー マ
平成17年 4月21日 (第66回)	(株)ライブドア 広報&宣伝グループ 乙部 綾子氏	ライブドアにおける企業ブランディング ～ネット企業の広報戦略～
5月12日 (第67回)	多可思総合策画（上海）有限公司 総経理 田岡 子氏	上海的PR起業奮闘記 ～中国の日系企業に求められる PRとPRエージェンシー
6月7日 (第68回)	フジサンケイビジネスアイ 常務取締役 編集局長 平田 篤州氏	フジサンケイビジネスアイ創刊1年 ～経済紙を一変させた紙面づくり～
7月15日 (第69回)	(株)宣伝会議 「宣伝会議」編集長 田中 里沙氏 「PRI R」事業部長 蓮間 崇道氏 「PRI R」編集長 田上 綾子氏 MTVジャパン(株) 代表取締役 笹本 裕氏 日産自動車(株) 販促事業部マネージャー 山口 俊彦氏 味の素(株) コーポレートコミュニケーション部 WEB担当部長 棗田眞次郎氏	業界唯一の専門誌 「PRI R（プリール）から見た 広報の新潮流 ～あなたの知らない広報業界の未来が 今、明らかに～
9月27日 (第70回)	(株)ニッポン放送 常務取締役 宮本 幸一氏	現職ラジオ局役員が語る 可能性と将来像 ～ラジオの未来は？！～
10月21日 (第71回)	毎日新聞社 デジタルメディア局 データベースセンター部長 迫 修一氏	カメラマンと上手に付き合う方法 教えます ～毎日新聞 元写真部長が語る 「こうすれば効果的な写真が……」～
11月21日 (第72回)	(株)テレビ朝日 編成制作局 制作1部 プロデューサー 田原 敦子氏	“徹子の部屋”プロデューサーが語る テレビ番組の制作と広報
12月2日 (第73回)	(株)文藝春秋 「週刊文春」編集長 鈴木 洋嗣氏	週刊文春の“マジメ”に傾聴を！ ～鈴木編集長が語る編集の現実～
平成18年	(株)テレビ東京	WBSの人気の背景

1月23日 (第74回)	報道局 経済部 部長 「WBS」プロデューサー 廣瀬 和彦氏	～新聞とテレビの経済ニュースの違いは～
2月23日 (第75回)	読売新聞 東京本社 経済部長 三浦 光男氏	経済報道の現状と課題 ～読売新聞 経済部長が語る～
3月9日 (第76回)	(株)千葉ロッテマリーンズ 事業部長 荒木 重雄氏	地域密着型広報で観客動員激増 ～ロッテマリーンズ・成功への秘策～

(3) 新任広報担当者実務講座

4月開催の「新人のための広報講座」よりも、より実務的なカリキュラム構成で実施し、52名(1日受講を含む)が参加した。(前年の参加は40名)

- ・7月12日(火)～13日(水) 2日間 於；銀座ラフィナート
- ・カリキュラムは次の通り。

開催日	講 師	テ ー マ
平成17年 7月12日	江崎グリコ(株) 広報部 東京担当 参事 切石 壮氏	広報とは何か？ 広報の本質を探る
	(株)プラップジャパン コミュニケーションサービス本部 プロジェクトチーム マネージャー 中村 峰介氏	実践メディアリレーション1 「マスコミの基礎知識とその仕組みを知る」
	(株)三越銀座店 営業推進部 広報 三井 智子氏	実践メディアリレーション2 「効果のあがる戦略的パブリシティ活動」
	フォーカスト・コミュニケーションズ(株) シニアコンサルタント 佐藤有喜子氏	実践メディアリレーション3 演習 「思わず書きたくなる 魅力的なリリース作成の秘訣」
	関東社内広報学会 FORUM META 会長 (株)寺岡精工 New Balance 編集局 チーフ 益田伊佐子氏	最新のインナーコミュニケーションの 考え方と実践
7月13日	(株)電通パブリックリレーションズ コーポレートコミュニケーション3 部長 青木 浩一氏 リスクコンサルティング部 専任部長 神田麻里子氏	「実践的危機管理」 ― 講義と演習 ―
	読売新聞 東京本社 経済部 産業分室長 藤本 昌弘氏	マスコミ記者の現場から ～信頼される広報担当、 嫌われる広報担当～
	(株)コムデックス コミュニケーション事業本部 第3ビジネスユニット マネージャー 吉澤 明美氏	広報活動の成功事例研究
	山見インテグレーター(株) 代表取締役 山見 博康氏	広報の達人になる法

(4) 広報ジュニア・カレッジ

ここ数年続いている、講義＋演習・レポート提出の運営を今年も踏襲して実施した。参加者 56 名のうち、ほとんどが実務のスキルアップを目指す入社数年を経たクラスであったが、会場を表参道（株）宣伝会議）に定着し、質の高い課題レポートの提出が多かったのが特徴的であった。（前年の参加者は 52 名）

- ・平成 17 年 10 月～平成 18 年 3 月 月 1 回 × 6 ヶ月 於；（株）宣伝会議
- ・カリキュラムは次の通り。

開催日	講 師	テ ー マ
平成 17 年 10 月 4 日 (第 1 回)	日本ロレアル(株) 取締役副社長 コーポレートコミュニケーション部 部長 坪田 秀子氏	戦略的広報プログラム作成法と メディアリレーション実践のポイント
11 月 18 日 (第 2 回)	(株)講談社 「フラウ」編集長 加藤 孝広氏 (株)スパイスコンサルティング 代表取締役 田代 順氏	現役記者・雑誌記者に聞く ～情報収集法と企画の立て方、 情報提供される側に聞く～
12 月 13 日 (第 3 回)	(株)コムデックス 執行役員 川原 武久氏	ブームを創る、ブランドを創る ～マーケティング P R の成功手法～
平成 18 年 1 月 10 日 (第 4 回)	(株)arex 代表取締役 江良 俊郎氏	緊急事態の際の広報担当者の役割と 成功事例・失敗事例
2 月 14 日 (第 5 回)	(株)スパイスコンサルティング 代表取締役 田代 順氏	メディア対応の基本と応用 ～上手に記者と付き合うための マル秘テクニック～
3 月 14 日 (第 6 回)	教育委員会 広報ジュニア・カレッジ担当委員 (株)電通パブリックリレーションズ CCコンサルティング室 プロデューサー 花上 憲司氏	プレゼンスキルと作品講評とプレゼン

(5) 研修見学会

話題性の高い企業・施設を訪れ、日常業務に生かすという狙いで開催しているが、平成 17 年度は 3 回実施した。なお、平成 18 年度より組織委員会主催の「企業訪問」と共催することになった。

開催日	訪 問 先	テ ー マ
平成 17 年 4 月 22 日	サントリー(株) 武蔵野ビール工場訪問	武蔵野ビール工場の広報活動／ 工場見学／試飲会
9 月 8 日	アメリカンファミリー生命保険会社	社員・代理店が主役、 企業の新しい社会貢献のあり方
11 月 1 日	日産自動車(株) 追浜工場	日産自動車快走の秘密に迫る

(6) P R 大学

平成 17 年度は前年（平成 16 年度）の反省から、半日・年 2 回（春・秋）の開催とした。春の P R 大学は“ コーポレートガバナンス ”をテーマに開催し、80 名の参加者、秋の P R 大学は“ ネット時代のメディア ”を中心に開催し、111 名の参加者があり、盛況であった。

- ・春期：平成 17 年 5 月 26 日（木） 於：浜離宮朝日ホール（朝日新聞東京本社）
統一テーマ『 会社は誰のものか？ 『企業価値をめぐる攻防』
～コーポレートガバナンスのゆくえと広報の役割～』
- ・カリキュラムは次の通り。

開催日	講 師	テ ー マ
第 19 回春期 平成 17 年 5 月 26 日	朝日新聞 論説副主幹 荻野 博司氏	コーポレートガバナンスの現在とゆくえ
	帝人(株) 広報・I R 室長 吉川 勝氏	企業経営と広報・I R
	ガバナンス評価研究会 代表 藤田 利之氏	議決権行使と広報
	中島経営法律事務所 弁護士・弁理士 中島 茂氏	危機管理と新会社法
	司会 荻野 博司氏 パネラー 吉川 勝氏 藤田 利之氏 中島 茂氏	パネルディスカッション 「コーポレートガバナンスのゆくえと 広報の役割」

- ・秋期：平成 17 年 10 月 25 日（火） 於：経団連会館 10F 1001 会議室
統一テーマ「ウェブを中心とした P R の新しい潮流
～インターネット時代のメディア変革と企業 P R～」
- ・カリキュラムは次の通り。

開催日	講 師	テ ー マ
第 20 回秋期 平成 17 年 10 月 25 日	N T T レゾナント(株) ポータル事業本部 メディア事業部 藤代 裕之氏	ブログ時代到来・ 今ネットでは何が起きているのか ～ブロガーが語る 「燃えるブログ」・「燃えないブログ」～
	(株)時事通信社 編集委員 湯川 鶴章氏	変貌するメディア ～インターネット時代に求められる メディアとは～
	(株)電通 インタラクティブ・コミュニケーション局 インタラクティブ プロデューサー 高広 伯彦氏	コーポレート・ブランディングと コミュニケーション・デザイン
	N T T レゾナント(株) 藤代 裕之氏 時事通信社 湯川 鶴章氏 (株)電通 高広 伯彦氏	質疑を受けてのディスカッション 「インターネットと向き合う企業広報」
	富士通(株) 広報 I R 室 室長 八木 隆氏	ネット時代のパブリックリレーションズ ～企業価値向上を目指して～
	(株)アドバンプレス 企画編集本部 広報 P R 部 部長 北村 良輔氏	インターネット時代の P R の現場から
	(株)日本ブランド戦略研究所 社長／チーフ・ブランディング・オフィサー 田中 章雄氏	企業ブランディングに貢献する Web サイト ～消費者に評価の高い企業情報サイト、 広報サイトとは～
	日本広報学会 常任理事 濱田 逸郎氏	総括および質疑応答

(7) 女性広報研究会（なでしこカウンスル）

無理なく楽しく学びながら女性のネットワークを広げることを目的に、女性会員約 80 名以外に例外的に会員社の広報担当女性の参加も認める研究会を平成 16 年スタートさせ、主として女性 PR パーソンの活動範囲を広げるために開催してきたが、ほぼ 2 ヶ月に 1 回の開催で定着してきた。

開催日	テ ー マ
平成 17 年 4 月 18 日	富士通(株) 訪問 富士通(株)の最新事例紹介／Q & A
6 月 11 日	前年比 6000%達成！ 『マカ』の商品広報を探る サントリー(株) 健康食品事業部 斎藤 由香氏
7 月 6 日	毎日新聞社 生活家庭部 部長 小島 明日奈さん
9 月 28 日	テレビ朝日 プロデューサー 田原 敦子さん
1 月 26 日	働く女性の応援団 家事代行サービス (株)ベアーズ 高橋 ゆきさん
3 月 28 日	広報ウーマンのための異世代コミュニケーション術 エートゥーゼットネットワーク 石橋 眞知子さん

(8) 資格制度

平成 17 年度の総会で承認されたことを受けて「資格制度事業推進委員会」として発展させ、技能認定基準策定分科会と実施計画策定分科会の 2 分科会を構成。さらに、分科会より各代表 2 名を入れて幹事会を開催し、必要に応じて、全体委員会を開催した。
上記 3 委員会はあわせて数十回の会議、調査、ヒアリングなどを重ね、計画案を策定した。

(9) 著作権対応ガイドラインプロジェクト

一昨年 12 月に検討を開始し、5 月の理事会においてガイドラインの承認を得、「協会ニュース」6 月号に掲載して、周知を図った。

(10) 料金基準プロジェクト

これまで教育委員会が主催するセミナーへの参加について、曖昧になっていた非会員の取り扱いと会員のメリットを明確にするため、料金基準を検討するプロジェクトを発足。原則オープンにしたうえで、会員と非会員の料金格差をつけた料金基準を策定した。

3. 広報出版委員会

本年も“協会の諸活動の理解促進・認知度アップ”、“協会メディア（協会報・PR手帳など）を通して、PR専門家の立場から広く情報を発信”することを目的に下記のような活動を実施いたしました。平成17年度は協会設立25周年に当たることから、「記念出版」、「PR手帳」など当委員会関連事項につき始動いたしました。

(1) 第8回「日本PR大賞」

- ① 「PRパーソン・オブ・ザ・イヤー」…… 宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部
有人宇宙技術部 宇宙飛行士 野口 聡一氏

	受賞者氏名	役職	受賞理由
PRパーソン・オブ・ザ・イヤー	野口 聡一氏	宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部 有人宇宙技術部 宇宙飛行士	スペースシャトル・ディスカバリー号に搭乗し、スペースシャトル飛行再開のための新技術の確認、国際宇宙ステーション(ISS)機器の交換・取り付けや、食料・消耗品などの物資補給を実施。近い将来の宇宙ステーションでの生活実現のために重要なミッションを成功させた。また、宇宙から日本の文化や伝統をPRした。その親しみやすいキャラクターとスペースシャトルでの冷静沈着な活動が、全世界の人々に感動を残し、多くの子どもたちに夢と希望を与えてくれた。

12月8日(木)東京商工会議所 会議室にて、野口 聡一氏への贈呈式を行った。朝日新聞、報知新聞に記事が掲載された他、時事通信社の配信により、京都新聞など地方新聞にも掲載された。

② 「PRアワード グランプリ」

前回(平成16年度)のエントリー部門手直しによりエントリー増加が見られたので、17年度も継続して下記3部門で、募集を行った。

- (イ) ルーティン部門
- (ロ) キャンペーン部門
- (ハ) スキル部門

エントリー数は27作品で、1次審査で、9作品に絞りこまれた。最終審査会は、特別審査員6名・公募会員審査員20名により実施され、次の作品の受賞が決定した。

	エントリー会社名(会員社)	業務名
グランプリ	(株)博報堂	地球温暖化防止国民運動 「チーム・マイナス6%」
ルーティン部門	小林製薬(株)	更年期障害の啓発と「命の母」のPR活動
キャンペーン部門	(株)プラップジャパン	食物繊維の新たな機能「ファイバーデトックス」を訴求するコミュニケーション活動
スキル部門	(株)電通	報道レピュテーション分析プログラム

③ 「PRアワード グランプリ」優秀作品発表会の実施

昨年を上回る聴講者があり、年々活性化している当催事を実感した。

・平成18年1月18日(水) 於；日本外国特派員協会

(2) プレスプロモーション活動

記者懇親会

「協会のPR」・「協会催事のPR」を目的として各メディアと日ごろコンタクトを取っているが、平成17年度も新聞、テレビを中心とした「記者懇談会」を開催した。34名の記者の出席があり、協会員も約50名が出席、盛り上がりのある会となった。協会側出席者には前回より多くの企業会員役職者の出席を願い、効果的な開催となるよう図った。

マスコミにおける協会の認知はまだ低いと言わざるを得ず、地道な継続作業が重要と考えている。

平成17年 12月1日	記者懇親会	場所： 日本外国特派員協会
----------------	-------	---------------

(3) 「PR手帳」の発行

2006年度版は、協会設立25周年を契機に、サイズ・デザインを一新。組織委員会PR業部会専門部会の4つの研究成果を掲載するなど、協会関連およびPRに関する情報を強化した。11月下旬から書店でも発売した。

(4) 「PR協会報」の発行（季刊）

ワンテーマ特集方式が好評で、テーマによっては増刷しているにも関わらず完売のケースがある。17年度もタイムリーなテーマで会員の期待に応えた。

発 行	特 集 ・ テ ー マ
2005年春号 (4月発行)	111号 特集「PRワークス Vol.4」
2005年夏号 (7月発行)	112号 特集「トップ広報の力」
2005年秋号 (10月発行)	113号 特集「まちが元気に蘇る」
2006年新春号 (1月発行)	114号 特集「進化し続けるメディア」

(5) 「PR協会ニュース」の発行（月刊）

平成16年度より情報誌化の努力を行っていたが、17年度さらに多くの協力者を得てその色彩を強めている。会員社における回読率・保存率のアップが図られているようで喜ばしい。内容の充実に比例して原稿締切等の苦労が増すが、定時（毎月1日）発行の目的はほぼ達成された。各委員会（小委員会、専門部会、プロジェクトなど）および会員社の事業などの記事掲載の要望が次第に増しており、情報誌化に合致し望ましい形となっている。引き続き、「協会ニュース」の活用を図るよう働きかけを行いたい。

(6) 「ホームページ」の充実

17年度もコンテンツの充実（英語版作成、PR手帳との連動、行催事の掲載など）やメンテナンスに力を注いだ。ホームページが改善され、見やすい・使い勝手の良いものとなったので、会員各位におかれては、ぜひ1度、協会のホームページを訪れていただきたい。新規入会希望もホームページから多くなってきた。また、PR手帳に掲載が間に合わないデータ等の追加情報・訂正データはホームページ／データベース小委員会より、フォローが行われているので、ご覧いただきたい。

(7) 「25 周年記念出版事業」

今年 3 月末発刊の予定で昨年夏より作業をスタートさせたが、思ったより時間がかかってしまった。内容は当協会の「PR アワード グランプリ」の過去の事例を中心に、パブリックリレーションズの真髓を当事者への取材をもとに編集するもので、PR の実務に携わる人たちへの手引書になると思われる。現在、夏（7～8 月）の発刊を予定している。

4. 関西支部委員会

一般企業の広報担当者会員の占める割合が多い関西支部は、現在の広報・PR を取り巻く環境を踏まえて、「定例会」では“マスコミやニュース報道の視点”、“社会現象や時宜に即したテーマ”を主体に、講師選定、各種講演会を開催しました。また、会員各社の要望に応え、新しく広報部門に配属された社員を対象に、実践的な「広報基礎講座」、「広報学校」を引き続き開催しました。一方、会員以外の企業に対しても毎回参加の機会を与えると共に、日本 PR 協会認知のための PR 活動の機会といたしました。

(1) 定例会

年間 8 回を目標に、時宜にあったテーマ、講師を迎え、講演会・勉強会・企業広報見学会を、広報業務の研鑽と会員相互の交流・親睦を図ることを目的に開催した。

開催日	講 師	テ ー マ
平成 17 年 4 月 22 日 (第 157 回)	朝日放送 社長室 部長 吉村 誠氏	情報に対処するには 自分自身の判断機軸を構築すること ～突込みを入れながらテレビを見よう、 疑いながら新聞を読もう～
5 月 27 日 (第 158 回)	読売新聞 大阪本社 編集局 経済部長 北原 久史氏	企業の社会的責任 「経営トップと広報の役割」
6 月 16 日 (第 159 回)	雪印乳業(株) 取締役 日和佐信子氏	消費者の立場で考える 企業の社会的責任 「経営トップと広報の役割」
9 月 22 日 (第 160 回)	(株)電通パブリックリレーションズ コーポレート・コミュニケーション・ コンサルティング室 プロデューサー 花上 憲司氏	認知症啓発のための調査研究と 広報活動の展開
10 月 21 日 (第 161 回)	(株)毎日放送 制作局 制作一部 専任部長 石田 英司氏	誠に勝手ですが、 ～企業の広報の方をお願いしたい事～
12 月 9 日 (第 162 回)	産経新聞大阪本社	新生 産経新聞社見学会と忘年会
平成 18 年 2 月 24 日 (第 163 回)	(株)テレビ東京 報道局 経済部 部長 「WBS」プロデューサー 廣瀬 和彦氏	経済ニュースは面白い！ 『WBS にみる新聞とテレビの違い』
3 月 16 日 (第 164 回)	神戸空港ターミナル(株) 代表取締役社長 森井 章二氏 神戸新聞社 経済部長 桃田 武司氏 神戸市 企画調整局 大東 一仁氏	神戸空港「マリンエア」見学会と講演会 テーマ：神戸空港の現状と可能性

(2) 広報基礎講座

中堅・新任の広報担当者を対象に開催。日常的な「メディアコミュニケーション」や「リスクマネジメント」にその基礎となる「広報と法務」、企業のコンプライアンス等広報部門にとって看過できない重要な課題と基礎知識に関する講座を開催した。

・平成 17 年 7 月 11 日（月）～12 日（火）2 日間

於：オークエンタープライズ(株) 会議室

開催日	講 師	テ ー マ
平成 17 年 7 月 11 日	(株)電通 法務室 関西法務部 プロジェクト・マネージャー 山本 康博氏	広報と法務 ～個人情報保護法の行方～
	(株)プラップジャパン コミュニケーション サービス本部 プロジェクトチーム マネージャー兼 メディアトレーニング部 トレーナー 中村 峰介氏	新聞の基礎知識とパブリシティ
	ファイザー(株) 製品広報部 製品広報担当課長 山下 節子氏	企業の広報からのアドバイス ～製薬会社のPR活動からのヒント～
7 月 12 日	朝日新聞大阪本社 編集局 経済部次長 富田 悦夫氏	広報は企業の窓 ～いい企業には必ずいい広報がある～
	井澤リスクマネジメント事務所 所長 井澤 幹夫氏	「危機管理」と 「クライシス・コミュニケーション」

(3) 第 19 回「広報学校」

テーマは「メディアコミュニケーション」と「危機管理」。特に企業側からは情報発信のあり方とメディアに対応するアイディア、心構えについて豊富な実務体験から解説をしていただいた。一方、企業を取材する新聞記者の立場から見た広報の問題点を、取材現場から鋭く指摘していただき、広報担当者にとって大いに日頃の業務に参考になった。

・平成 17 年 11 月 17 日（木）～18 日（金） 2 日間

於：松下電器産業(株) 「パナヒルズ大阪」

開催日	講 師	テ ー マ
平成 17 年 11 月 17 日	(株)共同通信社 大阪支社 経済部長 吉川 宏輝氏	広報が会社の命運を左右するとき
	(株)時事通信社 編集委員 湯川 鶴章氏	ネットとの融合で変貌する メディアと広報業務
	井澤リスクマネジメント事務所 所長 井澤 幹夫氏	クライシス・コミュニケーション シミュレーショントレーニングの オリエンテーション
11 月 18 日	井澤リスクマネジメント事務所 所長 井澤 幹夫氏	模擬記者会見（ビデオ収録） 講評
	コーディネーター (株)宣伝会議 「P R I R」編集長 田上 綾子氏 パネリスト 小林製薬(株) 広報総務部 広報グループ 課長 岩田 和子氏 (株)マンダム 広報 I R 室 課長 酢谷 香織氏 (株)J T B 西日本営業本部 広報課長 高崎 邦子氏	広報キーパーソンたちが語る メディアと上手に付き合う方法

5. 25周年事業委員会

平成17年度は協会設立25周年にあたり、次の3事業を定めた。

① 資格制度の導入

教育委員会 資格制度事業推進委員会のページで報告。

第18回総会での第4号議案として審議。

② 「日本PR協会編」による市販本の刊行事業

これについては取材・編集作業が遅れており、平成18年夏ころ刊行予定で、現在進めている。

出版物の内容・主旨については以下の通り。

- ・ 日本PR協会編とし、第1義的には「協会の認知向上」とする。
- ・ 内容は「理論と実務をミックスした総合的な広報論」誌とする。
- ・ 「実務」の視点から「PRアワード グランプリ」で蓄積された業務事例を柱とし、新たに募集した事例を加えた中から25の事例を選出する。
- ・ 事例の紹介は自社の業務が認知される好機である。（「PRアワード グランプリ」の関心度アップ、エントリー増という効果も期待。）
- ・ 初版は5000部を予定。別途会員配布分500部。

③ 広報三団体での共同事業

日本広報学会が設立10周年記念事業として開催した「国際シンポジウム」に（財）経済広報センターと協賛した。具体的には平成17年8月6日～7日「愛・地球博」の会場にて開催された『「広報が創る相互理解」～日中交流における対話と共創～』に協会員約40名も参加（全体では約150名）盛況であった。

なお、これを機会に広報三団体の間で、情報交換などを積み重ねていくことにした。

6. 活性化委員会

当委員会は「企業会員増加のために何をなすべきか」をテーマとし、平成17年7月にスタートした。広報活動を重視する企業が増えている中、「会員の増加」の大きな柱は、こうした企業に会員となってもらうことであります。そこで、「企業会員の増加」と「企業会員の活動参加率の向上」を、達成されるべき活性化のゴールイメージと設定し、具体的なアクションプランを立案しました。それを“小集団活動”とし、名称を「実践広報研究会」・愛称「PR Café」として立ち上げました。

- 特長1 : 企業広報が抱える課題は、企業の状況に応じて多様。従って、できるだけ複数のテーマを設定して、参加者を募集する。
- 特長2 : ホンネで語り合いたい。そのために一つ一つの集まりは少人数による会とする。
- 特長3 : 企業広報担当者の交流・情報交換を最大の目的とする。従って、交流が深まる中で、当初のテーマから別のテーマへと、テーマが派生することも結構。また、それに伴い参加者が同じ問題意識を持った別の会員に呼びかけて、メンバーを拡大させることも可能。開催回数や場所、ゲスト講演の有無など、運営に関しては、それぞれのCaféの参加者の合意により自由に決定し、進めていただくフレキシブルな活動。

「協会ニュース4月号（2006年）」で詳細に報告したとおり、平成18年6月よりまず4つの“PR Café”をスタートし、各Café店長のもとに具体的な活動に入る。

なお、スタートする4つのCaféは次の通り。

P R Café	店長	テーマ
Café 1	東レ(株) 広報室長 前田 一郎	I R兼務の課題と難題
Café 2	(株)ジェイ・ピーアール 代表取締役 高石 憲	メディアリテラシーと広報活動
Café 3	(株)宣伝会議 広報室長 切石 壮	広報事始
Café 4	トーマツ コンサルティング(株) マーケティング&コミュニケーション マネジャー 金子光太郎	P R会社とのWIN-WIN 関係の作り方